

## 読めばためになる3冊の本

開倫塾  
塾長 林 明夫

## 1. はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)皆さん、お正月はどのようにお過ごしになられたでしょうか。受験生の皆さんは、今年はお正月はなく、私立高校の学業特待試験がすでに終わった方もいらっしゃいますし、これから受験する方もいらっしゃいます。また、来週・再来週には大学入試センター試験があったり、私立大学の入学試験があったりと目白押しですので、受験生の皆さんは本当に大変だと思います。是非、がんばって勉強していただきたいと思います。

## 2. 読めばためになる3冊の本

- (1)「学力を付けるにはどうしたらよいか」というと、「新聞を読んで考える」、これが一つだと思います。もう一つは、「読書により思慮深さを身に付ける」ことです。ですから、読書をたくさんしていただいて、また、じっくりとしていただいて思慮深さ、物事を深く考えるということをしていただければと思います。では、どのような本を読んだらよいかというたくさんの御質問がありますので、今日は「読めばためになる本」を少し御紹介させていただきたいと思います。
- (2)就職試験を受ける方が、このような本を読めば非常に力が付くのではないかとお話になったりすることがあると思います。また、受験をする時や人生を歩む上でも、どのような本を読んだらよいかをご披露することがあると思います。そこで、私がお勧めしたい本の一つは、内村鑑三という先生の一連の著作です。岩波文庫に入っている「後世への最大遺物、デンマルク国の話」という本を、私は一番お勧めしたいなと思います。これは、内村鑑三先生が講演をした速記録です。「後世」とは後の世という意味です。「最大遺物」は最も大きな遺物、つまり遺せるもの、自分が人生を歩んでいって亡くなったあとに、後の世に遺せるものは何があるのかということを考えて本です。それを講演の形でおまとめになりました。私はこの本は素晴らしいと思います。
- (3)内村鑑三先生はこの講演の速記録の中で、人間が死んだあとに何を世の中に遺せるのかを考えて5つ挙げています。一つ目は「お金」です。お金を遺すことを卑しいと考える方がいらっしゃると思いますが、そんなことはありません。お金を遺していただければ、遺族の方はそのお金で生活することもできますし、学校に行くこともできます。また、大きいお金を遺していただければ、例えば、奨学金制度の仕組みを作って学校に行きたい方に奨学金を与えると、その方が勉強することができますので、お金を遺すことは素晴らしいことの一つだと思います。ですから、遺族の方はせっかく遺していただいたお金を大切に大切にお使いになることも大事ななと思います。内村鑑三先生が教えてくれた最初大切なものの一つはお金ですね。お金を遺すことも素晴らしいということです。
- (4)二つ目は「仕事」、「事業」です。例えば、鉄道を引く事業や図書館を造る事業、色々な形でお店を作る事業などたくさんのお仕事があります。仕事というのは誰かが始めるわけですから、その始める人になればいいのです。また、どなたかが始めた仕事を引き継ぐという仕事も大事で

すので、その大切な仕事を引き継ぐことも仕事を遺したことになります。つまり内村鑑三先生は、世の中で大切な仕事を自分で始めること、その大切な仕事を着々と引き継ぐこと、そのようにして仕事、事業を遺すことも大切だと教えて下さいました。

- (5)三つ目は「著作」、「書いたもの、つくったもの・作品」です。自分の考えをまとめて本にしたり、短い文にしたり、芸術作品にしたりなど、色々なものの活動を形にして遺すことも素晴らしいとおっしゃいました。お金、仕事・事業、著作・作品を遺す、このようにして3つ挙げて下さいました。
- (6)四つ目は「教育」ですね。人にもものを教えること、自分のお子さんやお孫さん、身近な人にもものを教えること、また、学校の先生であればクラスの方に教えられます。色々な形で人に教えることはできますので、自分の考えたことや自分で勉強したことを、今度は自分以外の人のためになるように、お子様のため、それから近所の人のため、お友達のため、自分の生徒のためになるように教えること、これも大事です。教育という形で人が死んだあとに遺せるものがあるということをお教え下さいました。
- (7)最後に、あの人はあのよう生きただという「生き方」を後世の方に遺すこともできます。何も遺せなくてもあの人はあのよう生きただという「生き方」を遺すことができる、このように「生き方」を遺すことも大事だということをお教え下さいました。内村鑑三先生は「後世への最大遺物」という本の中で、お金を遺すことも大切、お仕事を遺すことも大切、作品・書いたものを遺すことも大切、教育、人にもものを教えることも大切、そして、あの人はあのよう生きただという生き方を遺すことができるということをお教え下さいました。
- (8)この本の後半に「デンマルク国の話」という話があります。これは、岩波文庫「後世への最大遺物」の後ろの方についている講演です。デンマークの方が非常に荒れ果てた土地を耕して木を植えて素晴らしい国を造ったというお話です。それからもう一冊、「代表的日本人」という本があります。この本も素晴らしいです。外国の場合ですと、非常に素晴らしい生き方をしたとしてデンマークの方を紹介しましたが、「代表的日本人」では、西郷隆盛や栃木県に非常に馴染みがある二宮尊徳、二宮金次郎さんの生き方が素晴らしいなど5人の方を紹介しています。
- (9)それから最後に、自分はどのように生きたのか、自分はどのような考えでキリスト教徒になってキリスト教徒としての生き方をしたのかという「余は如何にしてキリスト信徒となりしか」があります。是非、内村鑑三先生の一連の著作である「後世への最大遺物、デンマルク国の話」、それから「代表的日本人」、「余は如何にしてキリスト信徒となりしか」という本、いずれも岩波文庫で本屋さんに行けば手軽に買えますし、また図書館にもありますので、これらの本を読んでいただいて自分の生き方を考えていただければと思います。ためになる本、どんな本を読めばためになるのかという考えはたくさんありますが、私はこの3冊を非常に高く評価しておりますので、是非、皆様にも読んでいただいて素晴らしい生き方をしていただければありがたいなと思います。

### 3. おわりに

就職試験それから進学をなさる方も大切な人生の分かれ道ですので、このようなためになる本を読んでいただいて自分の生き方を考えていただければと思います。また、これから定年を迎える方やすでに迎えた方も、これからあと30年、40年、105歳、110歳なるまでどのように生きるのかを考えるとときですので、このような本を読んでいただければありがたいなと思います。どうかよろしく願います。

2012年8月18日加筆訂正 林 明夫